

経済情勢

(6月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は、このところ弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。先行きについては、中国、米国経済の減速などを背景とした海外経済の下振れや、金融市場の変動、物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

(全国)

個人消費	持ち直しの動きに足踏みがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（6月）は前年を下回った
設備投資	機械受注（6月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（6月）は前年を下回った
輸出	輸出金額（6月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内で推移している
雇用情勢	改善の動きが弱まっている

(中国)

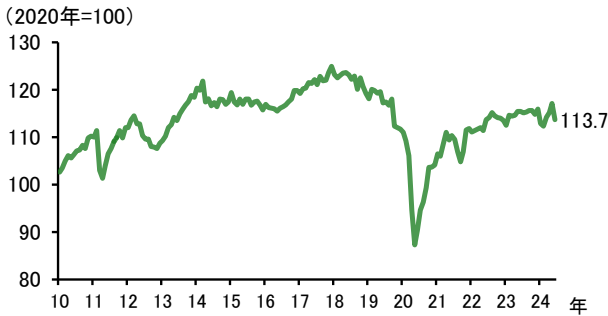
個人消費	持ち直しの動きに足踏みがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（6月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（6月）は前年を下回った
輸出	輸出金額（6月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内で推移している
雇用情勢	改善の動きが弱まっている

1. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査(6月)

景気動向指数(全国C I)の一致指数は、4カ月ぶりに低下、先行指数は、2カ月ぶりに低下した。
 景気ウォッチャー調査(現状判断D I)は、全国は4カ月ぶりに上昇、中国は3カ月ぶりに上昇した。

● 景気動向指数(C I)

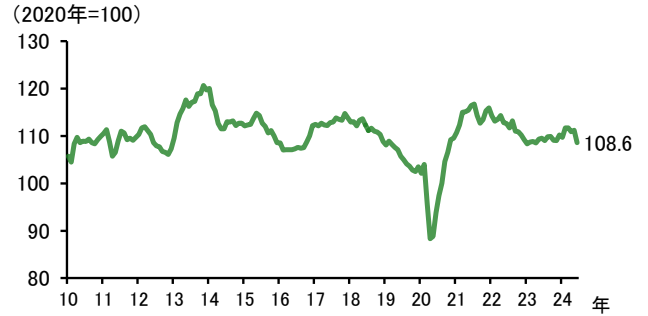
(一致指数)
 ・113.7(前月差▲3.4ポイント)と4カ月ぶりに低下。



C I 一致指数(前月差) ▲3.4

指標名	寄与度
投資財出荷指数(除輸送機械)	▲1.16
鉱工業生産指数	▲0.66
鉱工業用生産財出荷指数	▲0.63
商業販売額(卸売業)	▲0.56
耐久消費財出荷指数	▲0.55
有効求人倍率(除学卒)	▲0.10
労働投入量指数(調査産業計)	0.00
営業利益(全産業)	0.06
輸出数量指数	0.09
商業販売額(小売業)	0.12

(先行指数)
 ・108.6(前月差▲2.6ポイント)と2カ月ぶりに低下。



C I 先行指数(前月差) ▲2.6

指標名	寄与度
鉱工業用生産財在庫率指数(逆)	▲0.76
最終需要財在庫率指数(逆)	▲0.50
新設住宅着工床面積	▲0.47
マネーストック(M2)	▲0.38
中小企業売上げ見通しD I	▲0.35
日経商品指数(42種総合)	▲0.18
新規求人数(除学卒)	▲0.05
東証株価指数	▲0.02
消費者態度指数	0.06
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

注:1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指数(速報)」。
 2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要な景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

● 景気ウォッチャー調査(D I)

(全国)
 ・現状判断D Iは、47.0(前月差+1.3ポイント)と4カ月ぶりに上昇。
 ・先行き判断D Iは、47.9(前月差+1.6ポイント)と4カ月ぶりに上昇。



(中国)
 ・現状判断D Iは、45.3(前月差+0.6ポイント)と3カ月ぶりに上昇。
 ・先行き判断D Iは、48.5(前月差+2.5ポイント)と2カ月連続で上昇。



注:1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

2. 季節調整値

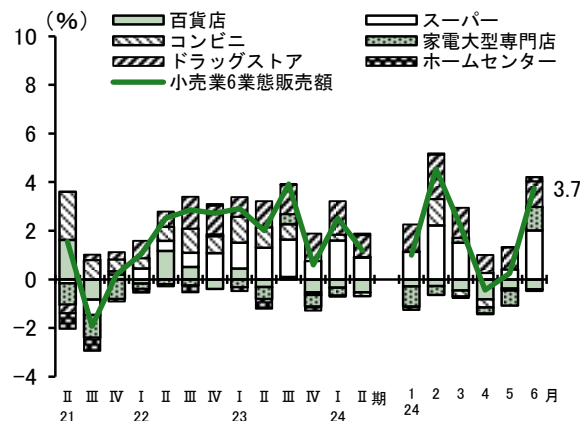
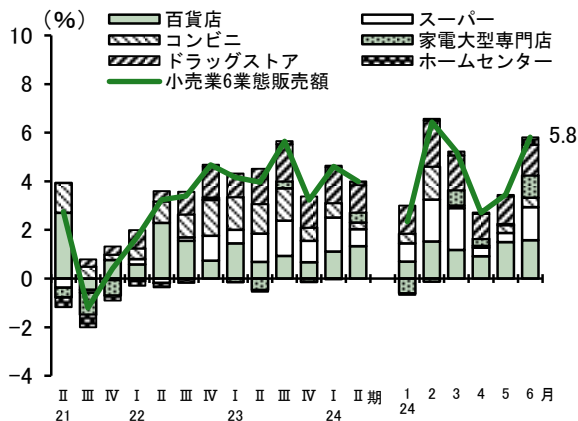
2. 個人消費 (6月)

全国、中国ともに、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) 百貨店、スーパーなどを中心に増加し、31カ月連続で前年比プラス(前年同月比+5.8%)。食品等を中心に店頭価格の上昇が全体の売上を押し上げているものの、消費傾向としては、買い上げ点数の減少など物価上昇による節約志向がみられる。今月は気温上昇により夏物商品などが好調に推移した。

(中国) 家電大型専門店、スーパーなどを中心に増加し、2カ月連続で前年比プラス(前年同月比+3.7%)。全国同様、食品等を中心に店頭価格の上昇が全体の売上を押し上げているものの、節約志向がみられる。店舗数減等による百貨店の売上減少が続くものの、今月は気温上昇により家電大型専門店の季節家電などが好調に推移した。



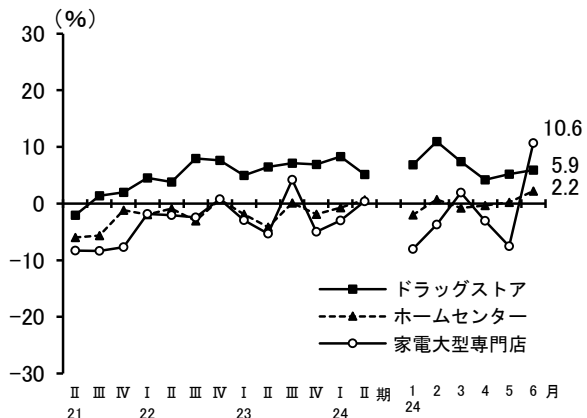
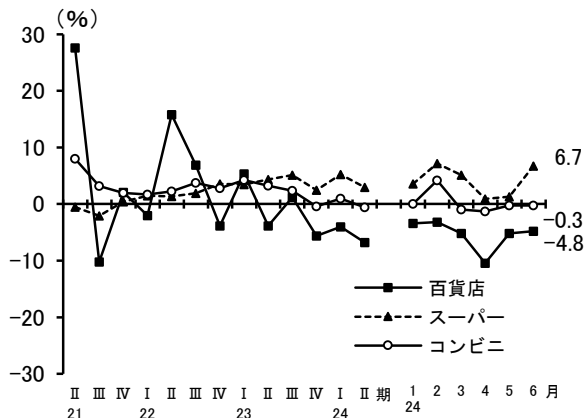
注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

(中国)
 ・百貨店は、一部店舗の売場面積縮小などの影響で、10カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲4.8%)。化粧品が好調に推移したものの、飲料品、衣料品等が減少した。
 ・スーパーは、相場高により米などの販売額が増加したほか、外出需要の高まりから旅行商材などが好調に推移し、24カ月連続で前年比プラス(同+6.7%)。
 ・コンビニは、月末の天候不順により飲料が低調に推移したほか、家飲み需要の低下から酒類も振るわず、4カ月連続で前年比マイナス(同▲0.3%)。

(中国)
 ・ドラッグストアは、価格上昇に加え、購買需要の高まりから米の販売額が増加したことなどにより、30カ月連続で前年比プラス(前年同月比+5.9%)。
 ・ホームセンターは、気温上昇により、扇風機やエアコン、冷感ウェアなどの夏物商品が好調に推移し、2カ月連続で前年比プラス(同+2.2%)。
 ・家電大型専門店は、梅雨入りが遅れ気温が高い日が多かったことから、エアコンなどの夏物商品が良く売れ、3カ月ぶりに前年比プラス(同+10.6%)。

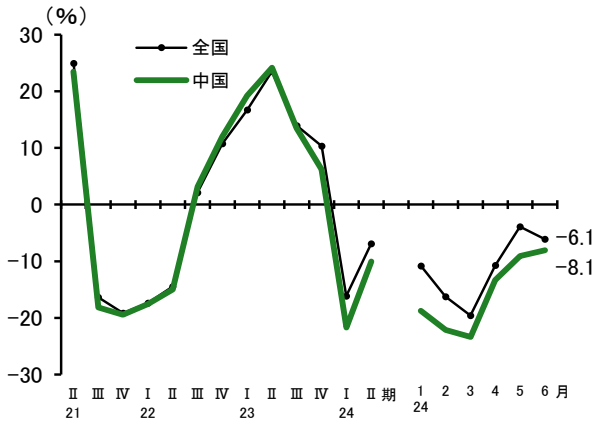


注：全店舗ベース
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

● 新車登録・届出台数 (乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 小型、普通、軽乗用車がいずれも減少し、6カ月連続で前年比マイナス (前年同月比▲6.1%)。年末以降の認証不正問題による落ち込みは、段階的な正常化に向かいつつあったものの、新たな認証不正問題による生産・出荷停止の影響で、回復に足踏みがみられた。

(中国) 普通、軽、小型乗用車がいずれも減少し、6カ月連続で前年比マイナス (同▲8.1%)。全国同様、新たな認証不正問題による生産・出荷停止の影響がみられた。

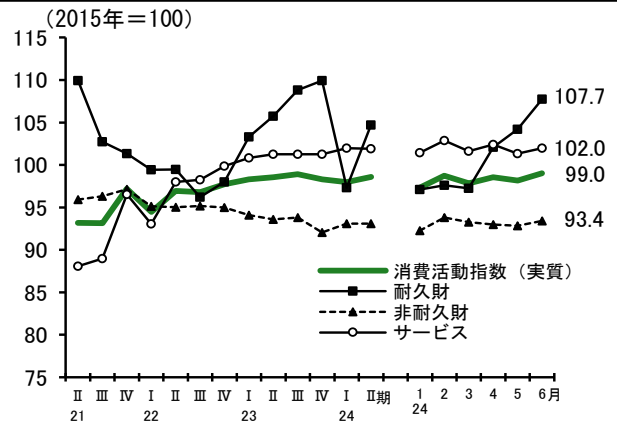


資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社) 全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数 (実質)

(全国) 消費活動指数 (季節調整済) は 99.0 (前月比+0.9%) と、2カ月ぶりに前月を上回った。

- ・耐久財は、気温上昇によりエアコンなどの季節家電が好調に推移し、前月を上回った。
- ・非耐久財は、気温上昇に加え、好天が多く外出機運が高まったことから衣料品などが好調に推移し、前月を上回った。
- ・サービスは、インバウンド需要が堅調だったことや、好天が多かったことから飲食業などが好調に推移し、前月を上回った。



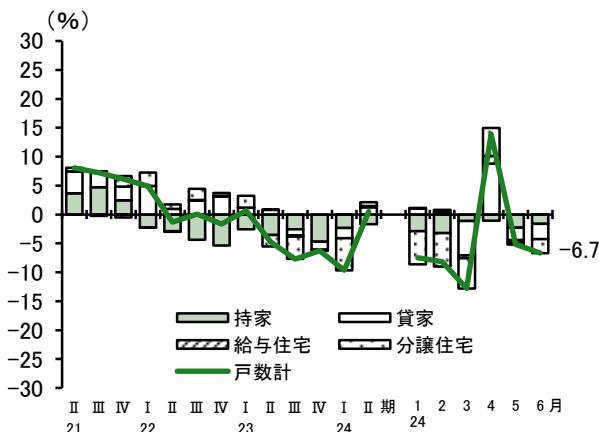
注：1. 季節調整済指数
2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財 8.9、非耐久財 40.5、サービス 50.7
資料：日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資 (6月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を下回った。

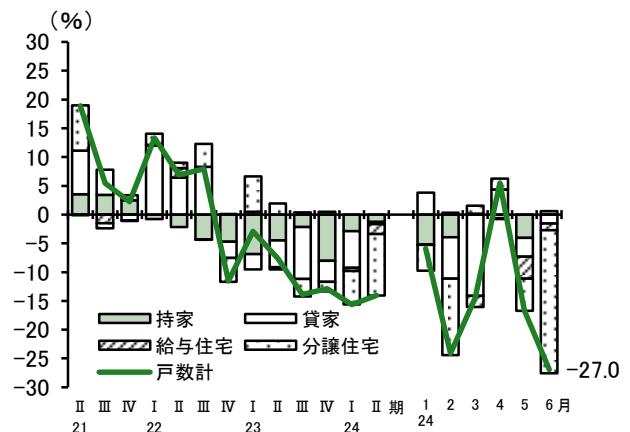
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 給与住宅が若干増加したものの、貸家、分譲住宅、持家が減少し、2カ月連続で前年比マイナス (前年同月比▲6.7%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 持家が増加したものの、前年が高い伸びだった分譲住宅が大きく減少したほか、貸家、給与住宅も減少し、2カ月連続で前年比マイナス (前年同月比▲27.0%)。



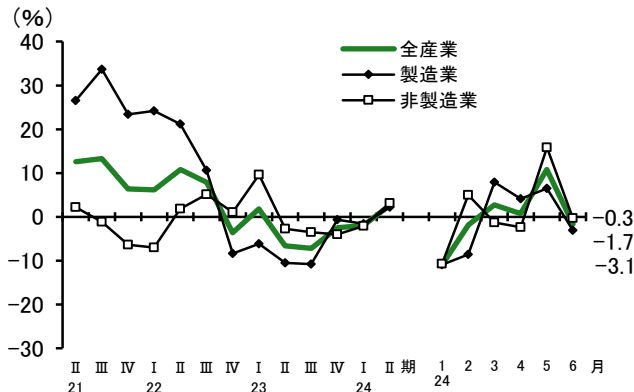
4. 設備投資・公共投資（6月）

機械受注（全国）は、製造業、非製造業ともに、前年を下回った。
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を下回った。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 4カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲1.7%）。
- ・ 製造業（同▲3.1%）は、造船業、化学工業などが増加したものの、電気機械、非鉄金属などが減少し、4カ月ぶりに前年比マイナス。
- ・ 非製造業（同▲0.3%）は、卸売業・小売業、建設業などが増加したものの、運輸業・郵便業、金融業・保険業などが減少し、2カ月ぶりに前年比マイナス。



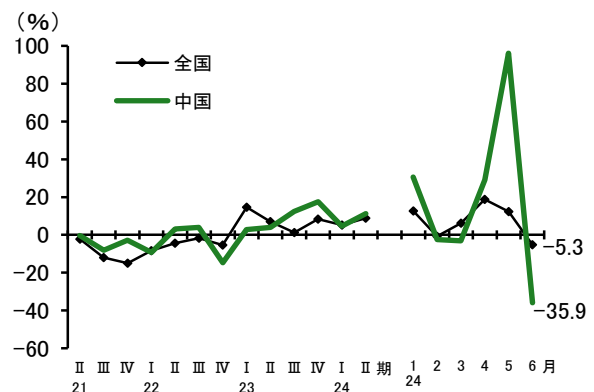
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

(全国) 独立行政法人等、国からの発注が増加したものの、その他公共団体、都道府県、市町村からの発注が減少し、4カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲5.3%）。

(中国) 前年が高い伸びだった市町村が大幅減となったほか、独立行政法人等、国、その他公共団体、県も発注が減少し、3カ月ぶりに前年比マイナス（同▲35.9%）。

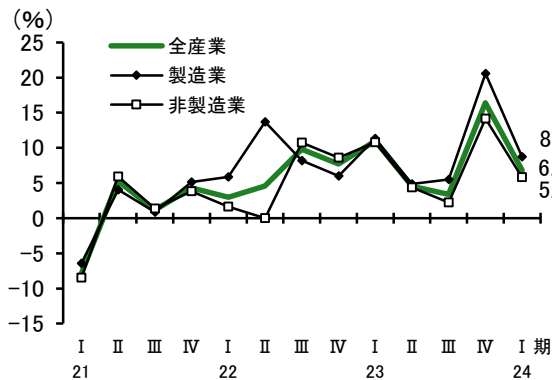


● 法人企業統計（2024年1-3月期）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 1-3月期の設備投資額は、12四半期連続の前年比プラス（前年同期比+6.8%）。
- ・ 製造業は12四半期連続のプラス（同+8.7%）。
- ・ 非製造業は7四半期連続のプラス（同+5.8%）。



注：1. 金融業・保険業を除くベース
2. ソフトウェア投資額を含む

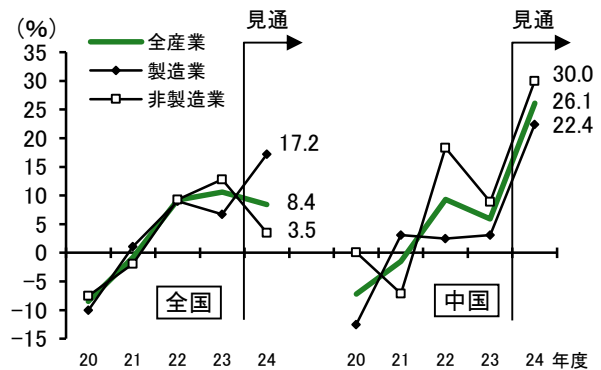
資料：財務省「法人企業統計」

● 企業短期経済観測調査（日銀短観2024年6月調査）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国) 2024年度の設備投資は、3年連続で前年を上回る見通し（前年度比+8.4%）。製造業、非製造業ともにプラス。

(中国) 2024年度の設備投資は、3年連続で前年を上回る見通し（同+26.1%）。製造業、非製造業ともにプラス。



注：1. 企業短期経済観測調査（短観）は四半期ごとに公表されている
2. 土地投資額を含む、ソフトウェア投資額と研究開発投資額は含まない
資料：日本銀行「短観（全国企業短期経済観測調査）」、
日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

5. 輸出・輸入(6月)

輸出金額は、全国、中国ともに前年を上回った。

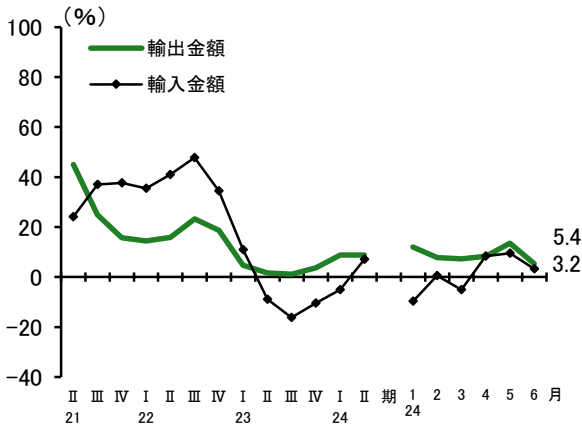
● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

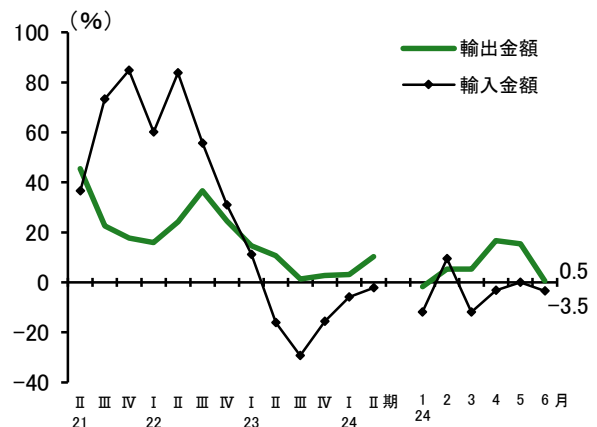
- 輸出金額は7カ月連続で前年比プラス(前年同月比+5.4%)。欧州向けに減速感があるものの、円安等により輸出金額が押し上げられている。品目別で見ると、鉄鋼や船舶等が減少したものの、アジア向けに半導体等製造装置が増加したほか、非鉄金属なども増加した。
- 輸入金額は3カ月連続で前年比プラス(同+3.2%)。品目別にみると、石炭などが減少したものの、電算機類(含周辺機器)や原動機などが増加した。

(中国)

- 輸出金額は5カ月連続で前年比プラス(前年同月比+0.5%)。品目別にみると、鉄鋼や船舶などが減少した。一方、自動車は欧州向けに減速感があるものの、北米向けが好調だったほか、アジア向けを中心に半導体等製造装置なども増加した。
- 輸入金額は2カ月ぶりに前年比マイナス(同▲3.5%)。品目別にみると、石油製品(揮発油等)などが増加したものの、原粗油、石炭などが減少した。



注: 1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報; 輸入速報 (9桁)
資料: 財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」



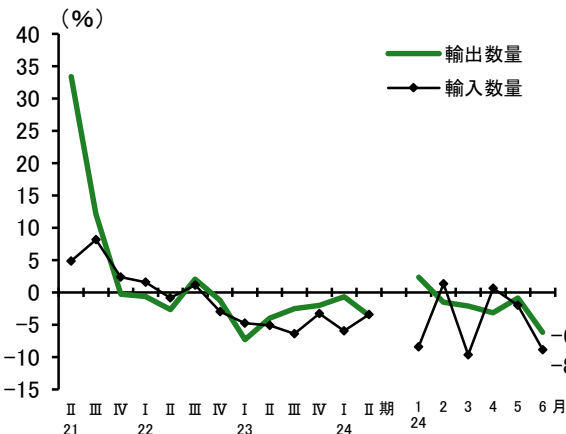
● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

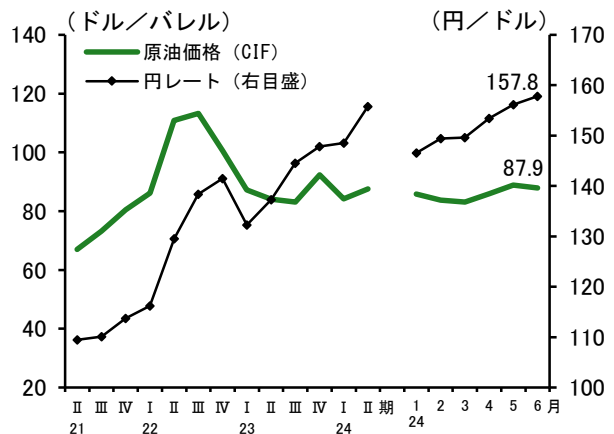
- 輸出数量は5カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲6.2%)。
- 輸入数量は2カ月連続で前年比マイナス(同▲8.9%)。

● 原油価格・円レート

- 原油価格は87.9ドル/バレルと前年に比べ5.7ドル上昇(前月に比べ1.0ドル低下)。
- 円レートは157.8円/ドルと前年に比べ16.6円の円安(前月に比べ1.7円の円安)。



注: 1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報; 輸入速報 (9桁) 3. 原油価格は全日本通関 CIF 価格
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月平均値
資料: 財務省「貿易統計」



6. 生産動向 (6月)

全国、中国ともに、横ばい圏内で推移している。

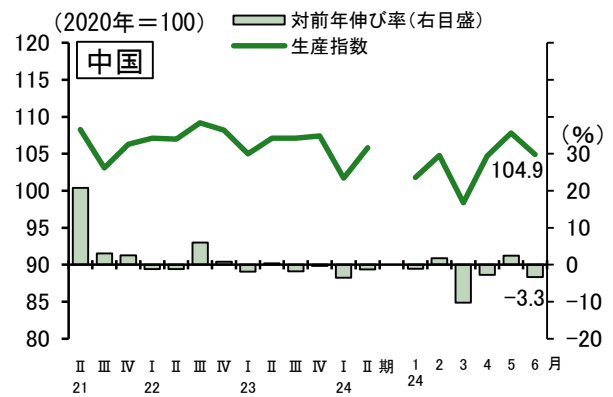
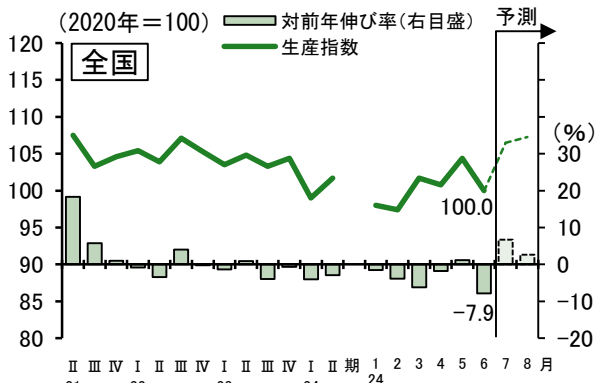
● 鉱工業生産指数 (総合)

(全国)

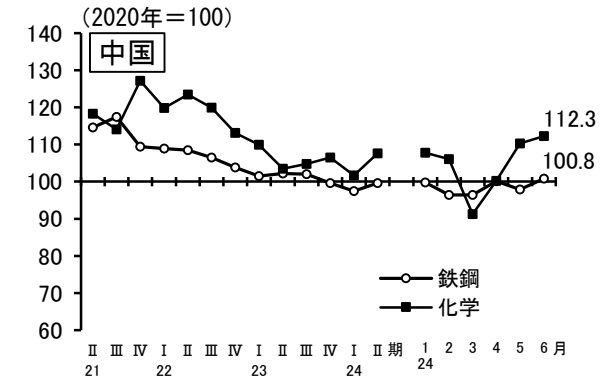
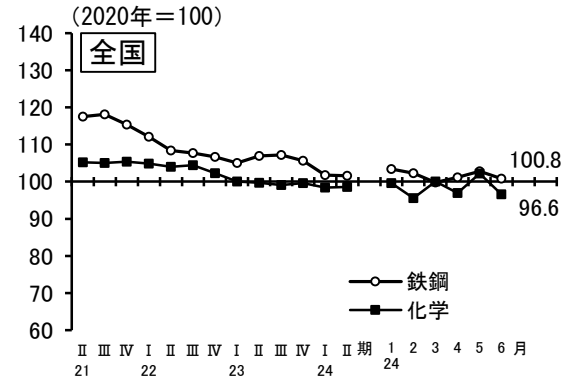
- 生産指数 (季節調整済) は、100.0 (前月比▲4.2%) と2カ月ぶりに前月を下回った。新たな認証不正問題により再び生産・出荷停止となった自動車のほか、汎用・生産用・業務用機械や化学が落ち込むなど、全ての業種が低下した。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲7.9%と2カ月ぶりにマイナスとなった。

(中国)

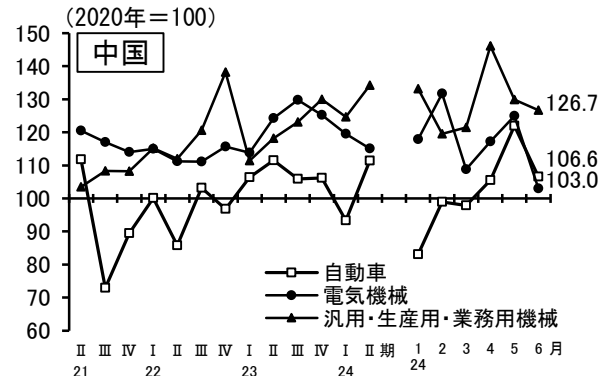
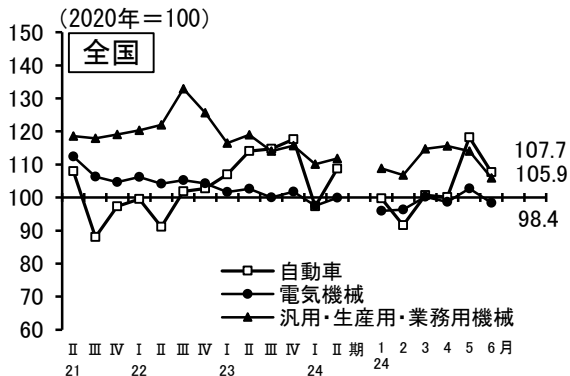
- 生産指数 (季節調整済) は、104.9 (前月比▲2.7%) と3カ月ぶりに前月を下回った。化学や鉄鋼などが上昇したものの、前月に大きく上昇した自動車のほか、電気機械、汎用・生産用・業務用機械などが低下した。
- 生産指数 (原指数) は、前年同月比▲3.3%と2カ月ぶりにマイナスとなった。



● 鉱工業生産指数 (素材)



● 鉱工業生産指数 (機械)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出 4. 中国の最新月は速報値 5. 全国は2023年4月速報分、中国は2024年1月速報分より、鉱工業生産指数の基準年が2015年から2020年に改定された 6. 「電気機械」は全国では1995年基準の業種分類を適用（電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計） 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では「旧分類」はん用・生産用・業務用機械工業、中国では「汎用・業務用・生産用機械工業」 8. 「自動車」は中国では「自動車（乗用車・トラック・主要部品）」
資料：経済産業省「鉱工業（生産・出荷・在庫）指数確報」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

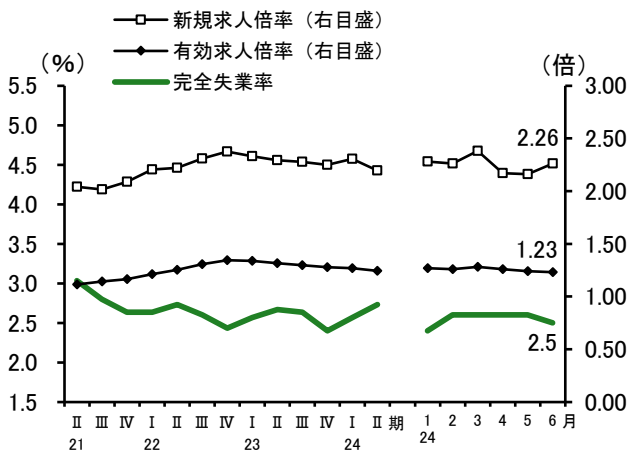
7. 雇用情勢(6月)

全国、中国ともに、改善の動きが弱まっている。

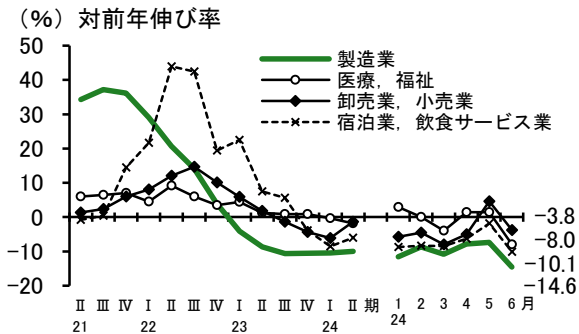
● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

(全国)

- 完全失業率は2.5% (前月差▲0.1ポイント) と5カ月ぶりに改善した。
- 有効求人倍率は1.23倍 (同▲0.01ポイント) と3カ月連続で低下した。
- 新規求人倍率は2.26倍 (同+0.10ポイント) と3カ月ぶりに上昇した。

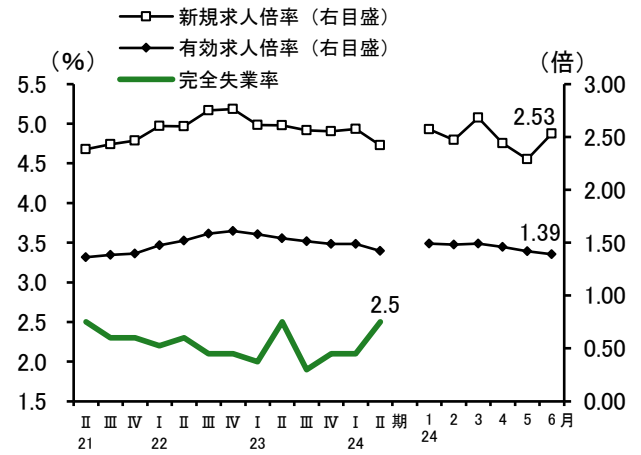


主要産業における新規求人数の推移(全国)

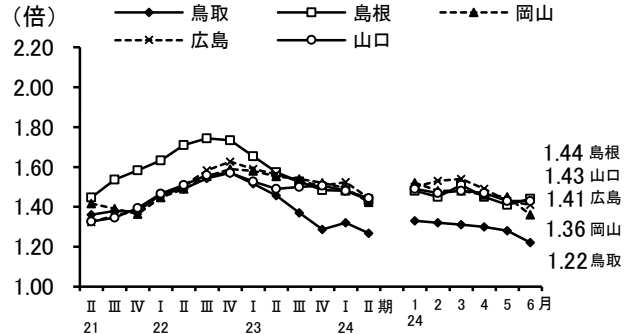


(中国)

- 4-6月期の完全失業率(原数値)は2.5%で、前年同期と比べ±0.0ポイントと横ばい。
- 有効求人倍率は1.39倍(前月差▲0.03ポイント)と3カ月連続で低下した。
- 新規求人倍率は2.53倍(同+0.24ポイント)と3カ月ぶりに上昇した。



有効求人倍率の推移(中国5県)

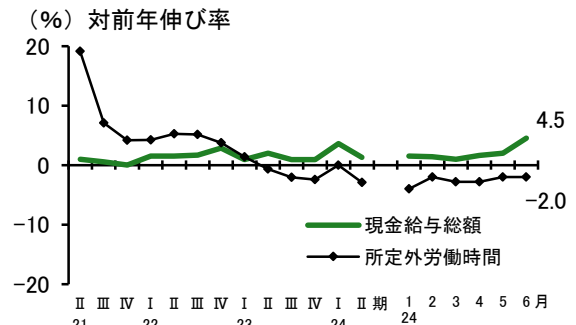


注: 完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値
資料: 総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- 現金給与総額は30カ月連続で前年比プラス(前年同月比+4.5%)。
- 所定外労働時間は、12カ月連続で前年比マイナス(同▲2.0%)。うち製造業は18カ月連続で前年比マイナス(同▲3.7%)。



注: 1. 事業所規模5人以上の指数(2020年=100)の対前年伸び率 2. 最新月は速報値
資料: 厚生労働省「毎月勤労統計調査」